

療育プログラムのご案内

児童発達支援、放課後等デイサービス キッズリオンヴェール

キッズリオンヴェールでは、療育の療法として以下の4つの柱に取り組んでいます。

1. ABA（応用行動分析）

2. ライフスキルトレーニング

3. 運動療育

4. ビジョントレーニング

4つの療育プログラム詳細

1. ABA療法（応用行動分析）

ABC分析を用い、問題行動の原因を探り、対応策を考えることで、問題行動を減らしたり、自己肯定感を高める取り組みを行っています。

【具体例】おもちゃ売り場の前でおもちゃを買ってもらえずに泣いて言う事を聞かない子供

A 先行事象	おもちゃ売り場の前にいる時
B 問題行動	泣いて言う事を聞かない
C 後続事象	おもちゃを買ってもらえる

親にとっては「問題行動」でも、子供にとっては「おもちゃが手に入る」という機能をもった行動と認識されます。それが結果としておもちゃ売り場の前を通ると毎回泣いて言う事を聞かない行動をする形になります。行動の原因と結果を明確にすることで、効果的な対応が出来るようになります。

- ・問題行動を減らす：おもちゃ売り場の前を通らない対応
- ・代替行動（良い行動）を増やす：お手伝いなどの何かいいことをした時におもちゃを買い与える対応

このようにABAを用いた支援は、問題行動を減らし望ましい行動を増やすことや、自己肯定感を高めながら成長を促していきます。

その他の環境設定

- ・物理的構造化：パーテーション等を使用し、視覚的刺激をなくす。
- ・スケジュール化：スケジュールボードにイラストや文字を使用し、1日のスケジュールを事前に伝える。

2. ライフスキルトレーニング

生活に最低限必要なスキルを身につけるための実践的なトレーニングを行います。
(将来ひとりで生活していくための力を身につける)

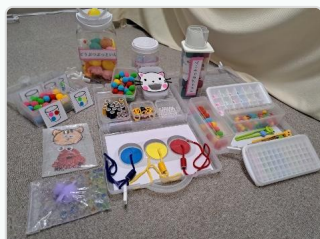
- お買い物の練習（生活するための力を身につける）
- 食育（生活するための力を身につける）
- 地域参加（社会との関わり）
- 避難訓練（安全の確保）



3. 運動療育

発達段階の基礎作りとして、微細運動と粗大運動の両面からアプローチします。

- 微細運動（指先訓練）：洗濯ばさみ、ピンセットを使った指先訓練
- 粗大運動：ダンス、ボール遊び、全身を使った運動など



4. ビジョントレーニング

眼球運動、視空間認知、目と手の協応などビジョントレーニングは療育の一環として、発達障害を持つ子どもたちの以下のような課題の改善に役立つとされています。

- **学習障害 (LD):** 文字の読み書きや計算などの学習に必要な視覚情報を正確に処理する能力を向上させます。
- **注意欠如・多動性障害 (ADHD):** 集中力や注意持続時間の向上、衝動性の抑制に役立つ可能性があります。
- **自閉スペクトラム症 (ASD):** 視覚的な情報処理の偏りを改善し、社会的なコミュニケーション能力の向上に繋がる可能性があります。
- **運動発達の遅れ:** 目と体の協調運動を促し、運動能力の向上をサポートします。

【具体的な内容】

- **眼球運動のトレーニング**：指やカードなどの目標物を目で追うことで、目のスムーズな動きを促します。（跳躍性眼球運動など）
- **視空間認知のトレーニング**：図形やパズル（タングラム等）を使い、空間認識能力や立体的な思考力を養います。※絵探し、数字探しは視空間認知トレーニングです。
- **目と手の協応のトレーニング**：ボールを投げたり、積み木を積んだりすることで目と体の連携を強化します。



療育活動事例（ケーススタディ）

療育活動①：ロールプレイ（SST）を通じた発展

ご家族からの困り感・要望

「楽しい事を増やして欲しい」とのご要望がありました。

狙い・これから

狙いは、SST（ソーシャルスキルトレーニング）の中のロールプレイです。「車で遊ぶ」という単一の行動から始まり、人（父、母、お姉さん、お兄さん）の動きも出るように発展していきました。「ケガをしたから病院に行く」「車にガソリンを入れに行く」「駐車場へバックで止める」「信号が青になったから進む」といった一連の流れが行えるようになりました。今後は、共同行動も行っていく予定です。



療育活動②：想像力と表現力の向上

ご家族からの困り感・要望

「テレビゲームばかりしているのが心配（ゲーム以外の興味関心を持ってほしい）。今は自分が納得するまで終われないが、少しずつでも途中で終われる気持ちの切り替え、理解が出来ると良い」とのご要望がありました。

狙い・これから

狙いは、想像力をいかし、表現し気持ちを伝えることです。「魚を釣ったらどうする？」「食べる」「どうやって食べる？」「焼いて食べる」といった会話から、火をおこす場所が増え、調理道具が増え、さらには取って食べる工程へと遊びが発展しました。少しの言葉でも一生懸命自分の気持ちを伝える事ができました。このスタイルで継続支援していきたいと考えています。



療育活動③：着席の習慣化と集中力の育成

ご家族からの困り感・要望

「保育園で皆と同じ事が出来ない。将来、社会に出る事が出来るのか。座っている事が出来ない」と心配しておられ、集団行動が出来るようになってほしいとのご要望がありました。

狙い・これから

狙いは、椅子に座る事の抵抗感、拒絶を軽減して頂く事です。座っている時間を1分から5分とスモールステップで支援する為、視覚的にわかりやすい動物型タイマーを分単位でセットしてスタートしました。初めは父親に足を延ばし傍にいる確認をしながら活動をしていましたが、椅子と次の療育道具を提供すると父親から離れ、椅子に座って行う事が出来ました。結果としてタイマーを10分、15分と延ばす事が出来ました。座る事の抵抗感をなくすように支援し、何かをする時は「椅子に座る」という行為が身につくよう、引き続き支援します。



療育活動④：個別支援による学習の基礎作り

ご家族からの困り感・要望

「勉強が出来るようになってほしい」とのご要望がありました。

狙い・これから

狙いは、個別支援で言語や認知、手先の操作力をつける事です。絵と文字のマッチング課題等を実施しました。正解の確認は、二つのカードを裏返すと同じ色になる仕組みを取り入れ、本人自身が正解を視覚的に理解出来るように工夫しました。今後も継続して学習の基礎を支援していきます。

